



難民・強制移動におけるフェミニズムとクィアのアプローチ

工藤晴子（神戸大学国際文化学研究科）

難民研究フォーラム研究会

2023年6月17日

本日の内容

0. 『難民研究ジャーナル』第12号：特集趣旨と特集論文
1. 難民保護におけるジェンダーとセクシュアリティの視点
2. フェミニズム、クィアのアプローチとは—方法論的視点から
3. 難民・強制移動のジェンダー分析
4. 難民・強制移動とジェンダー/セクシュアリティの規範と政治
5. 移動する主体の分断と他者化・序列化の回避

『難民研究ジャーナル』第12号

特集 難民・強制移動とジェンダー／セクシュアリティ

特集趣旨

1980年代以降、時期としては難民研究が学問領域として輪郭を形成した当初から、フェミニスト研究のアプローチは存在し続けてきた。難民女性の存在、彼女たちの経験、特にジェンダーに基づく暴力(Gender-Based Violence: GBV)と迫害の関連性、GBVからの保護や対応の取り組みに関する問題は、研究、政策、実践の領域で取り上げられてきた。2000年代以降は、フェミニズムのアプローチを踏襲しながら、強制移動の議論や、難民保護の枠組みの中に存在する異性愛規範への批判や、性的マイノリティの人々の経験の重要性を軸においたクィア研究の観点を備えた難民・強制移動研究のアプローチが蓄積されていく。ジェンダー／セクシュアリティの視点というのは、あってもなくても構わない付加的視点ではなく、難民・強制移動という問題を認識する試みにおいて、避けて通ることのできない視角であるといえる。難民研究フォーラム編集委員会は、なによりもまずその重要性を確認、周知し、今後の更なる研究や議論を喚起するという目的のために、「ジェンダー／セクシュアリティ」をテーマとする本特集を企画した。

(p.2)

『難民研究ジャーナル』第12号 特集 難民・強制移動とジェンダー／セクシュアリティ

特集論文

工藤晴子（国際社会学、ジェンダー/セクシュアリティ、難民・強制移動研究）

「難民・強制移動研究におけるフェミニズムとクィアのアプローチ」

園部裕子（社会学、国際移動研究、フランス社会研究）

「欧州共通庇護政策とジェンダー主流化—ヴァルネラブルな移民・難民の救済をめぐる言説と実践」

谷口洋幸（国際人権法、ジェンダー法）

「判例報告 B・C対スイス事件判決—欧州人権裁判所、2020年11月17日」

[翻訳] モイラ・ダスティン (Moira Dustin) ・ヌノ・フェレイラ (Nuno Ferreira)

「カナダのガイドライン9はSOGIEに基づいた難民性の主張の評価を改善するものなのか？」

難民保護におけるジェンダーとセクシュアリティの視点

- 1980年代～難民女性の保護
- 1990、2000年代 ジェンダーに基づく暴力・ジェンダーに関連する迫害、性的マイノリティの難民認定
- 2010年～LGBT難民の保護
- 2020～LGBTIQ+難民の保護

こうしてジェンダーとセクシュアリティの視点は、難民女性への注目から始まり、GBVと迫害の関連性、GBVからの保護へとシフトし、また、SOGIに基づく難民の主張、「LGBTIQ+」の人々の保護へと広がる。

強制移動の問題を、移動する主体を基点として捉えることの課題は、どう乗り越えることができるのか

認識論・方法論としてのフェミニズム

- 難民研究においてジェンダー分析という視点は用いられるようになったが、それは決してフェミニズムの視点とジェンダーの政治への注目を意味しない (Hyndman 2010)

方法論や手法の選択は、研究者かどのように知を生み出すことかできるかという前提や信念に基づく (Harding 1987)。こうした前提や信念が、わたしたちが知っていることを、「どのように知っているか」という認識論を構築する。方法論は、こうした認識論と方法・データをつなぐ役割をもち、そのなかで研究の問い・課題を設定する枠組みを構成。

1970年代、80年代のフェミニズム: 「女性を研究対象とし、知の収集の能動的主体として中心におく」ことで、「女性の経験を可視化」し、「伝統的な知の女性差別的なバイアスとそこに暗黙の了解となっている男性中心的前提」を明らかにすることを目指す (Stacey and Thoren 1985)。

広義のフェミニズムは、「ある個人的な、特に周縁化された人々の困難がいかなる歴史、文化、社会の関係性や構造、諸制度の中で生み出されてきたのか」(岡野2000)を、明らかにしようとする

アメリカにおける第二波フェミニズムのスローガン: *個人的なことは政治的なこと* の影響

- 私的な領域に属すると考えられていた事柄や問題 (家族、親密な関係、身体など)、取るに足らないとされる個人の経験や世の経験を中心に置き、それらが、社会構造のなかで規定されているものであると認識。

クィア (queer) という語について

2つの用法(菊池・堀江・飯野 2019)

(1) 研究の対象として:性(ジェンダー/セクシュアリティ)にまつわるアイデンティティ・カテゴリーとして、あるいはそれらの緩やかな総体を意味する言葉

(2) 視点として:ある特定のジェンダー/セクシュアリティのあり方を「普通」とみなし、それ以外のあり方を「逸脱」と位置づけ、他者化する考え方を批判的に検討する視点として

クィアの運動や研究のアプローチは、周縁化された人々のジェンダー、セクシュアリティ、人種、国籍、階級、年齢などによる差異を認識したうえで、規範や権力への抵抗を目指して連帯を模索する。

フェミニズムのなかにある、シスジェンダー中心主義や異性愛主義を問い直す。「普遍的な女性」の問い直しにも貢献する。

(*シスジェンダー:生まれたときに割り当てられた性別とジェンダー・アイデンティティが一致する人々)

「LGBTQ」という総称やアイデンティティ・カテゴリーをどう捉えるか

フェミニズムとクィアの方法論の特徴 (Ramazanoğlu and Holland 2002をもとに)

1. 特定の政治的立場に根ざした問いと、女性・クィアな人々の経験に認識論としての基盤をおく
2. 近代科学の方法論と男性中心の認識論に対する批判的立場から、規範、不平等、政治、歴史、社会現象、経験をジェンダー、セクシュアリティの視点を通して考察する
3. 心/身体、自然/文化、主観/客観、男性/女性、公的/私的といった社会科学の主流とされてきた解釈枠組みの二項対立を取り崩す
4. 研究者は、研究行為における権力関係を自覚し、不均衡な関係への批判的考察、権力構造の維持や分断を生み出す可能性を避ける努力として、研究を実践する

難民・強制移動とジェンダー分析

(1) 女性たちの経験を反映した難民の保護、難民の地位の認定に関する研究

私的な経験とされる女性たちの経験を、いかに国際難民法、そして国内法の運用・解釈において難民の迫害と解釈するかという問題についての研究。GBV概念の適応可能性。(長島2007、中村2019、小宮2022、高見2022、中山2019)

(2) 強制移動に関連する領域や制度をジェンダー体制としてとらえ、そこに生じる権力関係、秩序、規範、それらの影響を明らかにしようとするアプローチ (長谷部2021、佐々木2021、辻上2021、園部2017)

- 難民保護の意思決定における女性経験についての認識の限界、女性の本質化の問題
- ジェンダー主流化を評価軸として取り入れる支援事業の構造的な問題

強制移動のプロセスを、出身国、一時的な滞在国、庇護国、定住国、そしてそれらの国境周辺を連続的な空間として、またときに断絶する場としてとらえる

(3) 難民女性の心身の健康やトラウマの影響

特にGBVとの関連性が注目されてきた。ただし、難民女性の脆弱性、被害者性には注意が必要

難民・強制移動とジェンダー/セクシュアリティの規範と政治

1990年代以降の性的マイノリティの難民の保護

難民認定の基準や条約・法の解釈について課題、とくに異性愛規範を基盤とする問題を浮き彫りにしてきた。

- アイデンティティに関する信憑性や、支配的な概念の再強化についての問題への注目、交差性(インターセクショナルリティ)の視点
- ホモナショナリズム (Puar 2007)との関係性 (Murray 2014, 工藤2022)

欧米諸国における難民認定・保護をめぐる問題に研究が集まりがちであるの問題とは？

- 強制移動の多様な空間に注目した研究 (Shakshari 2014, Saleh 2020等)
- ジェンダー/セクシュアリティの視点を持ちながら、周縁化された人々の排除の構造、不均衡な権力関係、それを支え再構築する制度や社会構造を明らかにしようとする研究の存在

移動する主体の分断と他者化・序列化の回避

人の移動にかんするラベリングとカテゴリー化、移動する主体の分断と他者化に関連する議論

- 難民のラベリング (Zetter 1991, 2007)
- 移民／難民の二項対立の政治 (Abdelaaty and Hamlin 2022、錦田2016)

二項対立のフェミニスト分析 (Hyndman and Giles 2011)

「女性化」される第三国定住難民 (refugees) と「男性化」される庇護希望者 (asylum seekers)

これから

- 周縁化された人々の日常や経験といかに関わり、中心の規範や、かれらを周縁化させる言説、制度、社会構造をいかに変化させ、周縁化された人々の連帯を促す運動に資することができるか
- クィア移住研究(Queer Migration Studies)とクィア国際関係論 (Queer International Relations)と関連する課題設定
 - 難民支援の組織や運動の政治についての批判的研究、クィア・コミュニティ、トランス・コミュニティの実践、非正規性、収容と送還のダイナミクスへの抵抗、入国管理の制度との交渉についての考察、不均衡な国際政治・経済構造との関連性、ジェンダー／セクシュアリティの地政学
- 私たち(研究者/難民支援従事者)のまなざし

参考文献

- 岡野八代「フェミニズム」有賀誠他編『ポスト・リベラリズム—社会的規範理論への招待』ナカニシヤ出版、2000年、200頁。
- 菊池夏野・堀江有里・飯野由里子「クィア・スタディーズとは何か」菊池・堀江・飯野編『クィア・スタディーズひらく1—アイデンティティ、コミュニティ、スペース』晃洋書房、2019年、5頁。
- 工藤晴子『難民とセクシュアリティ—アメリカにおける性的マイノリティの包摂と排除』明石書店、2022年
- 小宮理奈「ジェンダーの視点を取り入れた難民認定審査を考える—DVをめぐる国際人権法と国際難民法の関係を中心に」『難民研究ジャーナル』11号、2022年、107～118頁
- 園部裕子「フランスの女性移住者による地位交渉のジェンダー化：難民認定基準におけるジェンダー主流化とFGM」『香川大学経済論叢』第90巻、第1号、2017年、111～137頁。
- 高見智恵子「強制結婚とDVを理由とする日本における難民認定事例」『難民研究ジャーナル』11号、2022年、119～128頁
- 長島美紀「難民保護におけるジェンダーに基づく迫害概念の適用の可能性：日本およびカナダの事例から」『法政論叢』、2007年、66～79頁
- 中村文子「ジェンダーと難民・強制移動—抜け落ちる難民女性への視点」小泉康一編『「難民」をどう捉えるか』、2019年、121～138頁
- 中山弘子「米国の難民認定手続におけるDV被害者の位置付け—トランプ政権下での展開に注目して」『難民研究ジャーナル』9号、2019年、72～84頁。
- 錦田愛子「序章」錦田愛子編著『移民/難民のシティズンシップ』有信堂高文社、2016年、3～11頁。
- 長谷部美佳『結婚移民の語りを聞くインドシナ難民家族の国際移動とは』ハーベスト社、2021年・佐々木祐「移動と暴力が交錯する生—メキシコにおける中米女性移民たち」田中雅一・嶺崎寛子編『ジェンダー暴力の文化人類学：家族・国家・ディアスポラ社会』昭和堂、2021年、353～374頁；辻上奈美江「揺らぐ家父長制—ノルウェーのアラブ系難民女性の定住過程」同上書、375～396頁。

参考文献

- Abdelaaty, L. and Hamlin, R., "Introduction: The Politics of the Migrant/Refugee Binary," *Journal of Immigration and Refugees*, 35, (2), 2021, pp. 233–239.
- Harding, S., "Introduction: Is There a Feminist Methodology?" in Harding, S. ed., *Feminism and Methodology*, Bloomington, Indiana University Press, 1987, pp. 3-10.
- Hyndman, J., "Introduction: The Feminist Politics of Refugee Migration," *Gender, Place and Culture: A Journal of Feminist Geography*, 17(4), 2010, pp. 453-459.
- Hyndman, J. and Giles W., "Waiting for what? The feminization of asylum in protracted situations," *Gender, Place and Culture: A Journal of Feminist Geography*, 18(3), 2011. pp.361-379.
- Puar, J. K., *Terrorist Assemblages: Homonationalism in Queer Times*, Durham, NC, Duke University Press, 2007.
- Ramazanoğlu, C., and Holland. J., *Feminist Methodology Challenges and Choices*, SAGE Publications, 2002, pp.4–16.
- Shakshari, S., "The Queer Time of Death: Temporality, Geopolitics, and Refugee Rights," *Sexualities* 17(8), 2014, pp. 998– 1015; Sarı, E., "Lesbian refugees in transit: The making of authenticity and legitimacy in Turkey," *Journal of Lesbian Studies*, 24, 2020, pp. 140-158; Saleh, F., "Resettlement as Securitization: War, Humanitarianism, and the Production of Syrian LGBT Refugees," in Luibheid. E., and Chávez K. R. ed., *Queer and Trans Migrations: Dynamics of Illegalization, Detention, and Deportation*, University of Illinois Press, 2020, pp. 74-89.
- Stacey, J. and Thorne, B., "The Missing Feminist Revolution in Sociology," *Social Problems*, 32(4), 1985, pp. 301–316.
- Zetter, R., "Labelling Refugees: Forming and Transforming a Bureaucratic Identity," *Journal of Refugee Studies*, 4(1), 1991, pp. 39-62.
- Zetter, R., "More Labels, Fewer Refugees: Remaking the Refugee Label in an Era of Globalization," *Journal of Refugee Studies*, 20, (2), 2007, pp. 172-192.